

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 043	提案機関名 一般社団法人神奈川県園芸協会
要望問題名 除草作業の機械化・省力化及び減除草剤	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 植木は露地に植栽された地下部を掘上げ出荷する。根鉢に雑草の植物体はもとより、種子の混入も商品品質を著しく低下させる。そのため、地際部分をはじめ、圃全体の除草は重要な作業であり、多くの時間、労力、薬剤を要している。一方、生産者の高齢化、後継者の減少は他作物と同様に進んでおり、省力化・機械化が強く望まれる。また、環境負荷軽減が各産業に求められている社会情勢下において、緑を提供する植木生産業はより強くその重責を担う必要がある。 除草作業の機械化及び半自動化、除草剤散布作業の機械化及び半自動化、熱水処理等除草剤を使用しない新たな除草方法の開発、農福連携による除草作業委託のマニュアル化等、植木生産における除草作業全体を統括した研究の実施を要望する。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部(果樹花き研究課)
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	対応の内容等 除草作業の省力化、環境負荷の少ない除草方法については、熱水除草、ロボット、ラジコン草刈機の導入等が考えられます。当所では果樹において「ロボット等の導入による省力化、簡易化を促進する技術開発」(2020～2021年)に取り組んでいます。また、露地野菜等でも除草作業の省力化の試験を実施する予定ですので、研究成果は普及指導部署を通じて情報提供します。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			